

2009年4月4日

プロジェクト報告書

【締切:プロジェクト終了後1か月以内。もしくは 2009年4月30日】

団体名 NPO 夢のマネージメント社

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願いします)を添付して下さい。

1. プロジェクト名

住民がつくる安全なまちプロジェクト

2. プロジェクトの目的とその背景 300文字まで

オレオレ詐欺の犯罪被害を受ける高齢者などは、自分は大丈夫と思っているが現実では防げません。そこで、地域の高齢者仲間でおレオレ詐欺の実例に即したシナリオを作り防犯寸劇団を結成して公演を始めましたがこれを広く普及するためにインターネットでの動画配信局を作りました。この動画配信局が小中学生の不良携帯電話や、ブログを親や学校の先生が管理し規制できることがわかり、顔も見えない信頼のおける仲間運用するプライベートサーバーシステムをつくることにしました。

3. プロジェクトの内容 300文字まで

防犯寸劇は、シナリオ作りと公演を住民のグループが実施しました。この映像を配信するプライベートサーバー局を多摩市 NPO センターに設置しました。このサーバーシステムは、携帯電話番号を登録するとサーバーシステムに加盟するメンバーが内容を見ることができます。そこで、信頼関係のある親や先生がチェックすることができ、不良メールなどの被害を防止できるようになりました。さらに、メールの内容の送受信を規制することもできます。これらのことから、このサーバーシステムを「砦システム」となずけて学校や信頼のおける仲間を単位に運用する商品として普及することにしました。このサーバーシステムには、参加者のホームページを沢山セットできるのでその企業などのバナー広告を掲載できるので資金の調達手段としても利用できます。(別紙報告書参照)

4. プロジェクト実施にあたっての工夫点とその効果 300文字まで

高齢者の寸劇公演は、ニュータウンで人のつながりのない高齢者をつなげる働きをしたが、公演の観客が少なく寸劇の効果の普及に限界がありました。そこでインターネットで寸劇の動画を配信する配信局を作りました。ところが、動画の配信局の内容に複数の人が共同で使うとお互いの情報を共有することができることがわかり新たな防犯機能をもたせることができました。現在の通信システムは個人を孤立させる欠点がありそこを犯罪者が利用しています。これを仲間防衛する機能ができたのです。しかし、個人のプライバシーを誰にでも公開することはできません。そこで、信頼のおける小さなグループで子のサーバーシステムを持つことにしたものです。

5. 全体的所感、終了しての感想など 300文字まで

生物は群れで命と情報を持っているバトンランナーですが、群れのプログラムを使わないと敵にやられてしまいます。群れは、マジック7という小さな単位から 100 人位の顔が見える信頼のおける仲間構成すると、人間の持つ群れの防衛プログラムが有効働き始めるようです。この人間の持つプログラムにあわせて、通信システムを組み立てることができました。このプログラムの設計者は、湯川秀樹の研究室を出て米国の NASA で研究室を持って宇宙のコンピューターシステムを設計した大木雄一郎氏です。多摩市在住でこのプロジェクトに参加してくれました。このプロジェクトは、これから多摩市教育委員会、東京都青少年治安対策本部などの協力を得て防犯対策を進めます。

6. 参考資料

2008 年度「住民がつくる安全なまちプロジェクト」報告書

参考資料あり